

③日本のゼロ金利政策:

(1980年代のバブル景気の発生)

日銀のゼロ金利政策を説明するためには、その政策がなぜ導入されたのかを説明する必要がある。

その原因は、1985年から1990年初めに起こった「バブル景気」とその崩壊にある。まずはこれを説明する必要がある。

いわゆる「バブル景気」は、1985年以降の日銀の超低金利政策によってもたらされた金余りの状況。

(これを過剰流動性の時代という)

-- この時期には株式、土地、ゴルフ会員権、美術品など、あらゆる物の値段が上昇した。最も象徴的だったのが株式市場。同市場の状況を表す日経平均が、1989年12月29日に市場最高値の38,915円を記録した。当時の世界全体の時価総額（株価×発行株式数）の実に60%を占めるという異常な状態にあった。そして、その翌年の初めから下落に転じた。

-- これが株式市場のバブル、バブルの崩壊である。そしてその後の日本経済を回復されるために取られたのが、日銀のゼロ金利政策である。

(ゼロ金利政策第1段階—1999年以降)

1999年に日銀は、デフレ（物価下落）克服のために最初のゼロ金利政策を決定。

ゼロ金利政策とは、金融機関の間で短期資金を融通し合う短期金融市場（コール市場）の金利を、日銀がほぼゼロに誘導したことからこう呼ばれている。

(ゼロ金利政策第2段階—2001年以降、量的緩和)

最初のゼロ金利政策では日本経済は回復しなかった。そこで日銀は、短期金融市場の金利をゼロに誘導するだけでなく、**市中にある貨幣の総量（これをマネタリーベースという）を増やすことを目指した**。この貨幣の総量を増やすので、**量的緩和政策**と呼んでいる。この第2段階の政策は2006年まで続けられた。

